

## カノコソウ

学名： *Valeriana fauriei* Briquit 科名： オミナエシ科



カノコソウは北海道から九州の山地のやや湿った草地に生える多年草です。別名でハルオミナエシと呼ばれています。

5月から7月ごろにかけて小さな淡い赤紫色の花が密になって咲きます。繁殖は種子でも可能ですが、株分けが一般的となっています。

全草、特に根に強い特異なおいがあり、乾燥させることで更に強くなります。そのにおいは、足の裏、履き古した靴下などと例えられるほど強く独特なものです。良いにおいと感じた場合はヒステリー気味な状態と言われています。

根茎及び根を乾燥したものは吉草根（キツソウコン）と呼ばれ、日本薬局方で定められる局方生薬となります。キツソウコンは浸剤または、チンキ剤として用いられます。鎮静作用があり、適応症は神経過敏症、精神不安症、心悸亢進に用います。精油においても鎮静効果があります。

カノコソウに似ている植物には、ヨーロッパでヒステリーなどの薬として用いられるセイヨウカノコソウがあります。日本産のカノコソウの方が精油を多く含んでいるため品質が良いとされています。

生薬名	吉草根（キツソウコン）	局方生薬
薬用部位	根、根茎	
薬効	鎮静作用	
用途	神経過敏、心臓神経症、精神不安症	

# カンレンボク

学名：*Camptotheca acuminata* Decne 科名：ヌマミズキ科



早蓮木（カンレンボク）の別名は喜樹（キジュ）です。生薬名も喜樹になります。「喜ぶ」に「樹」と書くこの名前は、なんだか縁起が良さそうに見えます。この名前の由来は、カンレンボクは丈夫で育てやすいこと、多くの実を实らせるため子孫繁栄として縁起のいい樹であるとされたことから来ています。夏に白い小さな花が集まって球状に咲きます。そして秋頃に実が実ります。カンレンボクの実には小さなバナナのような実が集まって球状になったような見た目をしており、とても特徴的です。

カンレンボクから得られるカンプトテシンという成分は、抗がん剤であるイリノテカンという薬を合成するための原料となります。イリノテカンという薬は細胞が増えることを妨げることで胃癌や卵巣癌、悪性リンパ腫などのがんに対して用いられる薬剤です。

喜樹は果実や樹皮などの薬用部位を乾燥させたものを煎じて服用しますが、含有成分であるカンプトテシンは下痢や嘔吐などを引き起こすなど、毒性もあるため服用には注意しなくてはなりません。

生薬名 喜樹（キジュ）

薬用部位 果実、樹皮、葉、根

薬効 抗がん作用

用途 抗がん剤の原料として子宮頸癌、胃癌、悪性リンパ腫などの治療に用いられる。

